



真喜屋力さん
『デジタルで甦る8ミリの沖縄』監督
1966年沖縄県那覇市生まれ。1992年に『パイナップルツアーズ』で監督デビュー。1994年、東京のミニシアター「BOX東中野」のスタッフとなる。その後、テレビアニメのディレクターとして台湾、東京で活動。『アークエトガッチンポー』を監督。2005年より那覇市に桜坂劇場の立ち上げに関わる。現在は沖縄アーカイブ研究所代表として、沖縄県外の8ミリフィルムの収集保存、公開を行っている。2020年クラウドファンディングによって1965年に撮影された7分を超える『ジュリ馬1965』を甦らせた。



野村拓哉さん
『だからよ〜鶴見』プロデューサー
神奈川県藤沢市出身。沖縄とは縁がない中で、沖縄出身の代表が立ち上げた「ぶからす家」に2004年創業時から勤め、横浜市鶴見区を中心に沖縄商品の販売や営業活動を行う傍ら鶴見ウチナー祭、川崎のはいさいフェスタなどの沖縄イベントを手掛ける。2016年からは沖縄国際映画祭の「つるみ応援団」を立ち上げ応援団長。渡辺純監督と意気投合し念願だった「だからよ〜鶴見」の映画製作に至る。2021年沖縄国際映画祭で上映。今後も鶴見区、沖縄タウンを盛り上げるために幅広く活動していく。



原義和さん
『夜明け前のうた 消された沖縄の障害者』監督
1969年愛知県名古屋市生まれ。2005年より沖縄を拠点にドキュメンタリー番組の企画制作を行う。公文書も少なくほとんど語られなかった私宅監置を「歴史の闇に埋もれた犠牲者」と感じ、「消された精神障害者」(2018年EテレハートネットTV/貧困ジャーナリズム賞2018)を作り、「夜明け前のうた 消された沖縄の障害者」として映画化する。「Born Again〜画家 正子・R・サマーズの人生」(2016年琉球放送/第54回ギャラクシー賞優秀賞)は2017年ねりま沖縄映画祭でも上映。



山里孫存さん
『サンマデモクラシー』監督
1964年沖縄県那覇市生まれ。1989年沖縄テレビ入社。バラエティーや音楽・情報番組など数多くの番組を制作。その後、報道部に異動。「沖縄戦」に関する取材を始め、戦後60年の2005年には、米軍が撮影したフィルムを検証・調査した『むかしむかしの島』を制作し多くの賞を受賞。2018年にはドキュメンタリー映画『岡本太郎の沖縄』を製作、『ちむぐりさ 菜の花の沖縄日記』でもプロデューサーを務めた。TVDキュメンタリーのディレクターとしての最新作である『サンマデモクラシー』を映画化。

第6回ねりま沖縄映画祭2021

わんわんの沖縄
あなごの沖縄

Schedule

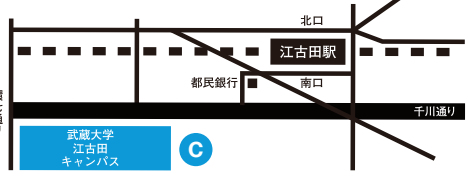
- 10月23日(土) 練馬区民・産業プラザ研修室1**
 - 18:00 デジタルで甦る8ミリの沖縄 上映後トーク 真喜屋力監督
- 10月30日(土) 練馬区民・産業プラザ研修室1**
 - 18:00 だからよ〜鶴見 上映後トーク 野村拓哉プロデューサー
- 11月5日(金) ゆめりあホール**
 - 13:30 ドキュメンタリー沖縄戦 知られざる悲しみの記憶
 - 16:00 生きろ 島田叡 戦中最後の沖縄県知事
 - 18:30 夜明け前のうた 消された沖縄の障害者 上映後トーク 原義和監督
- 11月12日(金) ゆめりあホール**
 - 13:30 ちむぐりさ 菜の花の沖縄日記
 - 16:00 緑の牢獄 GREEN JAIL
 - 18:30 ちむぐりさ 菜の花の沖縄日記 上映後トーク 山里孫存プロデューサー
- 11月13日(土) 武蔵大学江古田キャンパス2号館2202教室**
 - 11:00 [沖縄テレビ・ドキュメンタリー特集] むかしむかしの島で 沈黙を破る時 ~封印された墜落の記憶~ 上映後トーク 山里孫存 (沖縄テレビ)
 - 14:30 サンマデモクラシー 上映後トーク 山里孫存監督

チケットは事前にご購入もしくはご予約ください

★チケット購入

大人 **800円**
18歳以下・ハンディのある方 **600円**
(手数料は別途がかかります)

チケットぴあ価格
pia.jp/t
0570-02-9999
Pコード551703



★前売券予約

前売券 大人 **1,000円** 18歳以下・ハンディのある方 **800円**
前売券はメール・FAX・FaceBook・電話でご予約いただけます。
ご予約いただいた場合は、当日会場の受付で代金と引き換えて前売券をお渡しします。
いずれの方法でも◎お名前 ◎ご覧になる作品 ◎枚数 ◎連絡先
◎18歳以下・ハンディのある方はその旨をご記載ください。

- ① メール nerimaiegasai@yahoo.co.jp
 - ② FAX 050-6877-5315
 - ③ Face Book <https://www.facebook.com/nerimaokinawaeigasai>
 - ④ 電話 090-8311-6678(柏木)
- ★当日券 **1,200円**は 当日、定員に余裕がある場合のみ販売します。
ご参加に際してのお願い
●発熱がある場合、体調が悪い場合はご来場をご遠慮ください。●入場の際の検温、手指消毒にご協力ください。
●会場内では必ずマスクの着用をお願いします。●ロビーでの対面での会話や飲食はなるべく控えてください。
●受付でお渡しする参加者カードに氏名、電話番号等の連絡先記入のご協力をお願いします。

ねりま沖縄映画祭2021

上映作品

わりの沖縄あなごの沖縄

デジタルで甦る8ミリの沖縄

ドキュメンタリー 2021年 90分 監督:真喜屋力

1950年代から70年代にかけて、沖縄で暮らしていた市井の人びとの手で撮られた貴重で懐かしい8ミリ映像の数々…もしかしたら埋もれ消えてしまったかもしれない沖縄の戦後の日々、風景、家族、お祭り、さまざまな行事…二度と帰らぬあのととき、あのころ

が甦る。那覇では公園での野外上映も行われているとのこと。デジタル化作業の中で、沖縄以外の土地で撮られた映像も新たに加わり、真喜屋力さんの解説で観る。東京ではめったに観ることのできない、ねりま沖縄映画祭で毎年、好評を博す企画。



©沖縄アーカイブ研究所

だからよ〜鶴見

劇映画 2020年 70分 カラー 監督:渡辺熱

舞台は戦前から多くの沖縄出身者が移り住み、沖縄にルーツがある日系南米人も多く住む横浜市鶴見区の商店街。沖縄県外では唯一、沖縄角力（すもう）の大会が行われる鶴見で、沖縄角力の大会に挑む、地元商店街の若者の恋や友情を描く。チャ

ンプルーのように混じり合った異文化が息づく街、鶴見の魅力を発信する地域発信型映画。主演は沖縄出身のお笑いコンビ「ガレッジセール」の川田広樹。音楽は三線とギターの融合で新たな音楽シーンを奏でるかーなー・なみなみ（いーどうし）。



©だからよ〜鶴見製作委員会

ドキュメンタリー沖縄戦 知られざる悲しみの記憶

ドキュメンタリー 2019年 105分 カラー(一部モノクロ) 監督:太田隆文

第2次世界大戦時に日本で唯一の地上戦となった沖縄戦を、体験者や専門家の証言とアメリカ軍撮影の記録フィルムによって、沖縄上陸作戦から戦闘終了までを描くドキュメンタリー。戦争末期の1945年、日本軍の劣勢が続く中、女性や子供、老人までもが動員され、日米合計約20万の戦没者のうち沖縄県出身者が12万人以上、当時の沖縄

の人口の3人に1人が亡くなるという凄惨（せいさん）な戦いの真実を調査した。当時、満州で戦線に立った宝田明と、原爆の悲劇を描いた「きのこ雲の下から、明日へ」を上梓した斉藤とも子がナレーションを担当。監督は原発事故を描いた『朝日のあたる家』などを手掛け、本作が初の長編ドキュメンタリーとなる太田隆文。



©浄土真宗本願寺派 青空映画舎

生きる 島田叡 戦中最後の沖縄県知事

ドキュメンタリー 2021年 118分 カラー(一部モノクロ) 監督:佐古忠彦

「生きる」。沖縄戦の渦中、県知事の島田叡は、周りの人々にそう言い続けた。自決や玉砕が美徳とされた時代、敗戦必至の45年1月に赴任、6月に南部で消息を絶つまでの島田の知られざる軌跡を追う。「県民二対シ後世特別ノ御高配ヲ賜ランコトヲ」、海軍次官あて打電した大田海軍司令官との親交なども交え、当時の島田を知る人々の証言から、

沖縄戦の実相もまた照らし出されていく。鉄血勤皇隊として血みどろの沖縄戦に動員された故大田昌秀元県知事は語る、「行政官として本当に尊敬すべき、本物の人物じゃないかと思います」と。今年3月の公開から沖縄でロングランが続いた。「カメジロー」二部作で沖縄戦後史に切り込んだ佐古忠彦監督の最新作。



© 2021映画「生きる 島田叡」製作委員会

夜明け前のうた 消された沖縄の障害者

ドキュメンタリー 2020年 97分 カラー UDCast 監督:原義和

かつて日本に存在した精神障害者隔離制度「私宅監置」。その実態に迫ったドキュメンタリー作品。「私宅監置」とは、自宅敷地内の小屋などに精神障害者を隔離する措置のことで、1900年に制定された精神病者監護法に基づく制度である。隔離された人たちは人生を奪われ尊厳を深く傷つけられた。日本本土では1950年に禁止になったが、沖縄で

は本土復帰の1972年まで継続され、その後も公的な調査や検証は行われていない。沖縄でこの問題を追いつけてきた原義和監督が、1964年東京から派遣された精神科医岡庭武氏の記録した写真と当時のメモをもとに犠牲者の消息をたどる。沖縄県の正史から闇に隠された歴史的実事が、ここに浮かび上がる。



©2020 原 義和

ちむぐりさ 菜の花の沖縄日記

ドキュメンタリー 2020年 106分 カラー 監督:平良いずみ

北陸能登を出た15歳の少女は、子どもから高齢者（夜間中学）がともに学びあう沖縄の珊瑚舎スコーレで高校3年間をおくる。一人暮らしをしながら故郷の新聞に連載した記事には彼女の純粋で鋭い感受性があふれていた。広大な米軍基地。県民の強い反対を押し切り埋め立てが進む辺野古。米兵による女性への暴行事件や米軍機の墜落、部品落下が今も絶えない。本土に伝わらない「沖

縄戦はまだ終わっていない」現実を目の当たりにして彼女が感じたものは？卒業後も、県民投票運動や辺野古の海人から学んだ生き方とは？「あなたが悲しいと私も悲しい」という意味の肝（ちむ）ぐりさ。「あなたも私も無力ではない」という言葉が響く。2018年「地方の時代」映像祭グランプリ受賞の沖縄テレビ開局60周年記念ドキュメンタリーを基に映画化。



©沖縄テレビ放送

緑の牢獄

ドキュメンタリー 2021年 101分 カラー 監督:黄インイク

沖縄県西表島に暮らす90歳の橋間良子。彼女は植民地時代の台湾から養父とともにこの島に来て、人生の大半を島で過ごした。自然の宝庫と言われる西表島にある「緑の牢獄」。明治期の近代化政策の一環で始まった炭坑が、密林の中に廃墟（はいきょ）として残る。脱走、暴動、殺人、自殺が多発し、抗夫たちはモルヒネを常用していたという。

炭鉱の暗い過去、島を出て音信不通となった子どもたち……忘れることのできない数々の記憶が彼女の脳裏をよぎる。彼女はなぜ一人で島に残り続けるのか、記録映像や歴史アーカイブ、再現ドラマなどを盛り込み、台湾からこの島に渡った一人の人間の過去と現在を多角的に描いていく。前作『海の彼方』に続く「狂山之海」シリーズの第二弾。



©ムーリンプロダクション

むかしむかしこの島で

TVドキュメンタリー 2005年 48分 カラー 制作:沖縄テレビ放送

「島の形が変わった」と言われるほど激しい地上戦が繰り広げられた沖縄戦。米軍が撮影した沖縄戦の記録フィルムがアメリカ公文書館に保管されていた。「反戦平和なんて僕には関係ない」と言い放つ上原正稔氏は、記録フィルムに残されている場所と人を特定したいと沖縄各地を調査し、証言を集めてきた。「大切なことは、沖縄戦を撮影したフィ

ルムに、無数の沖縄住民の姿が映っているということだ。ボクは、フィルムの中の『主人公』たちに、この映像を届けたいんだ！」各地で開かれた上映会で、映像の中に、自分自身や家族、知人の姿を見つけて、人々の記憶が甦り、長い間秘めてきた思いを語り始める。フィルムに閉じこめられていた数々の「物語」が、明らかになっていく。



©沖縄テレビ放送

沈黙を破る時 ～封印された墜落の記憶～

TVドキュメンタリー 2014年 48分 カラー 制作:沖縄テレビ放送

米軍基地に隣接する沖縄県うるま市川崎。住民2人が犠牲となり、7人が重軽傷を負った米軍機墜落事故。長い間、封印されてきた大惨事の悲しい記憶。なぜ記憶は封印されたのか、沈黙とその理由を探っていくTVドキュメンタリー。体験者の証言を掘り起こしながら、当時の映像群を検証。どの墜落事故を記録したものか、場所も日時も不明な映像を探る

中で、沖縄では本土復帰後42年間だけでも米軍機の墜落事故が45件も発生している事実を突きつける。もし、自分の家族が米軍機事故に巻き込まれたら、あなたは現状を看過できるのか。事故で深く傷ついた男性と家族の半生を通して全国の人々に問いかける。第23回FNSドキュメンタリー大賞ノミネート作品



©沖縄テレビ放送

サンマデモクラシー

ドキュメンタリー 2021年 99分 カラー 監督:山里孫存

「アメリカ世」といわれた米軍政下の沖縄。1961年高等弁務官になったキャラウェイは、沖縄にとって「自治は神話」と演説で公言、直接統治を強めた。こんな中で糸満出身の魚屋のおばあ玉城ウシが起こした「サンマ裁判」。当時本土から輸入されるサンマに20%の関税がかけられ、値段が跳ね上がった。ところが関税リストの項目にサンマは入っていなかった。63

年に税金還付を求めて琉球政府を提訴し、おばあは勝訴。ひとりのおばあが起こした裁判を入口に、自治権をかけて統治者アメリカに挑んだ沖縄の人々のドキュメンタリー。のちにこの運動は民主主義と自治をめぐる運動に発展していった。沖縄嘶家のレーサー（藤木勇人）の軽妙に語られる楽しくて厳しい沖縄現代史・沖縄の心。ここにはたくさんの学ぶべきことがある。



©沖縄テレビ放送